

ラジオの魅力 —学生パーソナリティの現場から高齢者へ

1 目的・概要

コロナ禍では、多くの高齢者が親族とも会えない状況で、孤立を感じていると考えられる。そこで、本プロジェクトは『高齢者と若者の心の距離を縮める』ことを目的に進めた。

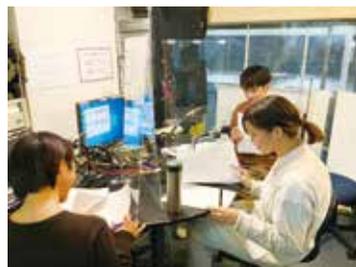
春学期は、オンライン会議で秋学期からの方針を定めるとともに、講師である大江先生の番組『みやこの音楽気分』に電話出演することで、番組出演の経験を積んだ。

秋学期には、ラジオ番組『6時だヨ！d-radio!』の放送を開始。その音源を高齢者施設で流し、番組についてアンケート調査を行った。結果を基に、高齢者の趣向に合うよう内容を工夫。より聴きたくなる番組を作ることで目的の達成を試みた。



Annual Schedule

- 2020年 5-8月 京都三条ラジオカフェ「みやこの音楽気分」出演
- 8月 zoom を利用して活動の方針について会議
- 9月 KBS 京都「武部宏の日曜とーく」出演
- 9-10月 ラジオ大阪「みやこの音楽気分」出演
- 10月 ゲストスピーカー 後藤繁榮氏（フリーアナウンサー）
- 11月 街頭インタビュー実施
- KBS 京都「武部宏の日曜とーく」出演
- 11月-12月 高齢者に向けてアンケート実施
- 2020年 11月-2021年 1月 「6時だヨ！d-radio!」出演



2 成果達成度

アンケート

番組を確実に聴いていただけるよう、録音音源を高齢者施設に直接届けた。その際にアンケートを実施し、ラジオ番組についての意見を頂戴した。以下で詳しく説明する。

目的

高齢者の方々が抱えるラジオに関する①趣向②満足度に関して分析を行った。分析方法としては高齢者施設に、独自に作成したラジオ CD とアンケートを送らせていただき、我々のラジオを聴いてもらった後にアンケートに回答していただいた。標本数はコロナ禍にもかかわらず 36 名もの方々にご協力いただいた。

変数の説明

- ・ Satisfy (満足度) 5 段階評価
 - ➔我々の作成したラジオを聴いてもらった後に、そのラジオに対する感想(良かった～悪かった)を評価してもらい、それを数値化した。
- ・ Easy (聴きやすさ) 5 段階評価
 - ➔作成したラジオを聴いてもらい、聴きやすさ(聴きやすい～聴きにくい)に関して評価してもらい、それを数値化した。
- ・ Fromnow (今後のラジオ習慣) 4 段階評価
 - ➔作成したラジオを聴いたうえで今後、ラジオを聴く習慣を作ろうと思ったかどうかを評価してもらい、それを数値化した。

データの性質

- 標本サイズ：36 ○平均年齢：74 歳 ○性別 男性：14/女性：22
- ラジオに関する満足度：大変満足 8%/満足 22%/普通 56%/不満足 14%

趣向、満足度に関する分析

1、趣向に関する分析

a) 高齢者の方々が求めているラジオのテーマを調査した

➔ここで得た結果をラジオ番組の作成に活かした
 高齢者の方々は時事ネタや音楽、健康に興味を持っていることが分かった。これらを活かして、ラジオ番組作成の際にはコロナ問題(時事ネタ)、お風呂で出来る体操(健康)などのテーマを扱った。固定概念で高齢者の方は歴史に興味があると調査前は思っていたが、歴史は最も少ない 6%であった。



2、満足度に関する分析

満足度に関する分析では満足度の割合を円グラフで分析するのではなく*、ラジオの満足度を上昇させている要因について単回帰分析を行った。モデル式はラジオの満足度を被説明変数に置き、説明変数にはラジオの聴きやすさを置いた。このモデル式を設定した理由としては、アンケートの自由記入欄に「間が気になる」「笑い声が気になる」といった聞きやすさに関する意見が多かったため聴きやすさを説明変数に置いた。好むテーマとの合致度を説明変数に置かなかった理由としては、アンケートでテーマに関しては複数回答が目立ちあまりテーマは大きな要素でないと考えたからだ。加えて合致度を測るのは困難であり分析が煩雑になる可能性があったからだ。

*満足度の割合に関してはデータの性質で触れているので、そこをご参照いただきたい。

(モデル式) $Satisfy = \beta_1 \text{easy} + E$

Satisfy 満足度 easy 聴きやすさ E 誤差項

(結果) 係数：0.437 P 値：0.0005

P 値 < 0.05 であり、この結果は有意である。

聴きやすさが大きくなるほど、効用も大きくなるわかる。ラジオを行う際は聴きやすさに注意して放送しなければならないと分かる。



最後に我々のラジオが高齢者の今後のラジオ習慣にどのように影響を与えたかを分析した。

a) ラジオの満足度は今後のラジオ習慣形成に影響しているか
(モデル式) $Fromnow = \beta_1 \text{satisfy} + E$

Fromnow : 今後のラジオ習慣 Satisfy : 満足度 E : 誤差項
(結果) 係数 : 0.53 P 値 : 0.0057

P 値 < 0.05 であり、この結果は有意である。

係数に関しても 0.53 であり、ラジオの満足度は今後のラジオ習慣形成に繋がることが分かった。

b) ラジオ習慣を持たなかった高齢者に与えた影響

これまでラジオを聴く習慣を持たなかった 13 名の高齢者のうち、我々のラジオを聴いて今後聴く(または聴くかもしれない) と答えた人数は 9 人獲得することができた。これは 69% であり、我々のラジオは高齢者から満足してもらったと共に、高齢者のラジオ習慣を形成することができた。

アンケート以外にも、以下のような事柄が成果として表れた。

・ **スポンサーの提案**

私たちの番組の趣旨に共感して下さったという方から、スポンサーの提案があった。

・ **奈良テレビの特集**

奈良テレビに、私たちの活動を取り上げてもらえることが決まった。詳細は未定。

・ **お便り・メッセージ募集**

届いたお便りメールは 1 通のみ (1/13 現在)。Twitter や Instagram でも、活動風景などの投稿に対して「いいね」の反応はあったが、具体的なメッセージは届かなかった。



3 プロジェクトを通じて

このプロジェクトを通じて、学んだことは大きく分けて 2 つある。

・ **ラジオ番組制作の知識**

ラジオ放送に向けた発声方法や番組制作、ゲストスピーカーを招いてラジオの特性や共感性について教わるなど、新鮮で刺激的な授業ばかりであった。初めは緊張で声が震えたり、時間通りに進行できなかったりしたが、徐々に自信が付き、最終的には学生主体でラジオ番組を制作・進行が出来るまでに成長した。

・ **協調性**

今学期は新型コロナウイルスの影響により、高齢者施設への訪問・交流ができない状況であった。そんな厳しい環境下でも、商店街での街頭インタビューや録音音源を高齢者施設に届けるなど、いま出来ることをチーム一丸となって取り組んだ。

困難も多くあったが、メンバーの真摯な取り組み、金子先生や大江先生の情熱溢れる指導のおかげで多くのことを学ぶことができた。大変感謝している。



編集後記

今年は新型コロナウイルス感染拡大のため、高齢者の方と直接コミュニケーションをとることができませんでした。難しい状況ではありましたが、高齢者の方のために「何が自分たちにできるのか」模索を続けた結果、多くの方が番組に満足して下さり、目的の達成に近づくことができたと思います。また、想定外であったのは番組スポンサーに名乗り出てくださいる方がいらっしまったことです。詳細は未定ですが、私たちの活動に共感して下さる方がいらっしまったことは、とてもうれしく思います。活動を終えた今後も、高齢者の方のために何ができるのか、考え続けていこうと思います。

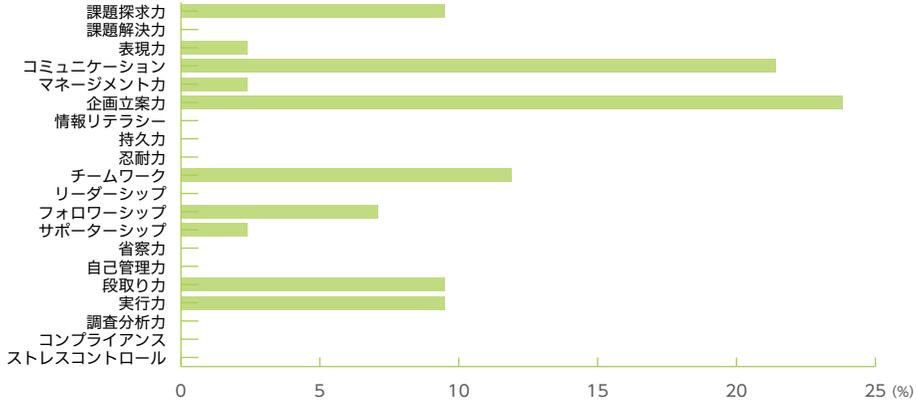
プロジェクトメンバー

元野 くるみ(文3) 小川 健志(社会4) 服部 航(社会3) 北尾 萌音(社会2) 戸塚 祥来(社会2)
井手 峻太郎(法3) 石飛 大和(法3) 松尾 暖花(法2) 小野寺 晏英(経済4) 上甲 佳乃子(経済3)
水野 竜吾(経済3) 大原 和泰(経済3) 大橋 寿咲(商3) 今西 美友(政策2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

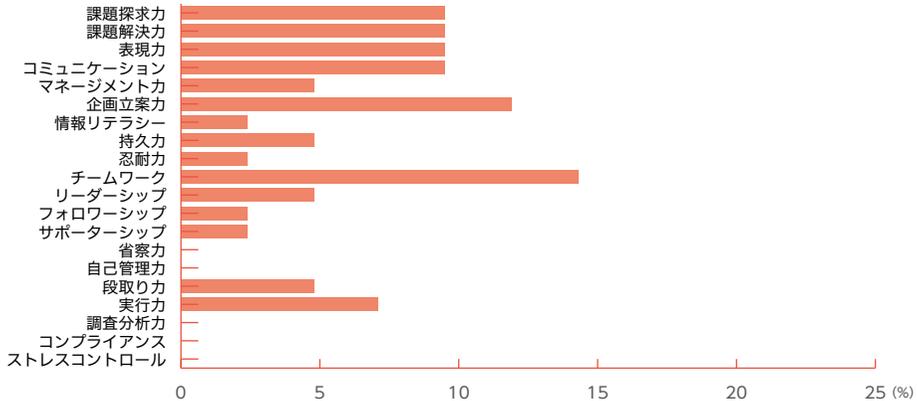
秋学期開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



秋学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

